

競技注意事項

1 競技規則について

- (1) 本大会は2024年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項によって行う。
- (2) リレー種目、競歩、投てき種目及び混成競技を除く種目については、2024年度世界陸上競技連盟(WA)競技規則を適用する。(ワールドランキングコンペティション(WRk)申請大会)
- (3) 競技会における広告および展示物に関する規程は国内規程を適用する。

2 練習について

- (1) 練習は、プログラム記載の指定された会場及び時間で、競技役員の手配に従って行うこと。
- (2) 各練習会場では、逆走や牽引ロープ、ミニハードル、マーカーコーン等の器具等を用いた練習は禁止する。
- (3) 本競技場芝生内での投てき練習は一切禁止する。
- (4) 雨天練習場(本競技場バックストレート外側)の使用について、次のことに留意すること。
 - ア 走練習のみとし、ハードル及び砂場の使用は禁止する。(レーンの割当てはプログラム参照)
 - イ 走る方向は南側(1500mスタート側)から北側(200mスタート側)への一方通行とする。
 - ウ 器具等(ハードル、ミニハードル、マーカーコーン等)の使用は禁止する。
 - エ シートや荷物等を置いての場所取りは禁止する。

3 招集について

- (1) 招集所は、本競技場メインスタンド下の室内練習場(100mスタート側)に設ける。防風ゲート(100mスタート地点後方)の扉から出入りすること。
- (2) 招集に関する時刻は下表のとおりとする。

		ラウンド・種目等		招集開始時刻 (点呼開始)	招集完了時刻 (移動開始)
トラック競技	予選	100m 200m 400m 800m	1・2組	競技開始 25分前	競技開始 15分前
		110mH 100mH 400mH 4×100mR 4×400mR	3・4組	競技開始 15分前	競技開始 5分前
		1500m	1組	競技開始 25分前	競技開始 15分前
		3000mSC	2組	競技開始 15分前	競技開始 5分前
		準決勝、決勝		競技開始 25分前	競技開始 15分前
				競技開始 25分前	競技開始 15分前
フィールド競技	走高跳、走幅跳、三段跳		競技開始 50分前	競技開始 40分前	
	棒高跳		競技開始 100分前	競技開始 90分前	
	投てき種目		競技開始 50分前	競技開始 40分前	
混成競技	トラック種目		競技開始 25分前	競技開始 15分前	
	フィールド種目		競技開始 40分前	競技開始 30分前	

*混成競技の招集は、第1日及び第2日の最初の種目のみ招集所で行う。各日2種目目以降は混成競技者控室にて競技役員の確認を受け指示に従うこと。

- (3) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該種目を棄権したとみなして処理する。
- (4) 招集の手順について
 - ア 競技者は、招集開始時刻(点呼開始時刻)に招集所で待機し、最終確認を受けること。その際、アスリートビブス、名前、校名、スパイク、衣類、持ち物等の点検を受けること。(点呼後は待機場所を無断で離れないこと。)
 - イ ビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CDプレーヤー、トランシーバーや携帯電話もしくはそれらに類似した機器を競技区域内に持ち込むことはできない。
 - ウ 代理人による招集の最終確認は認めない。多種目を同時に兼ねる競技者は多種目同時出場届を競技者係(招集所)に提出し、競技進行に支障のないようにすること。
 - エ 欠場する場合は当該種目の招集開始時刻までに欠場届を競技者係(招集所)に提出すること。
 - オ リレーオーダー用紙について、あらかじめ招集所で受け取り必要事項を記入し、各ラウンドの第1組の招集完了時刻の1時間前までに競技者係(招集所)に提出すること。(準決勝、決勝も同様)

カ 多種目同時出場届、欠場届、リレーオーダー用紙は招集所に用意する。

キ アスリートビブスについて

(ア) 所定の大きさのままで胸と背にはっきり見えるように付けること。ただし、跳躍種目については胸または背にのみに付けるだけでもよい。

(イ) 男子 5000m、女子 3000m、男女 5000mW は主催者が用意する別ビブスを使用する。競技者は自分のアスリートビブスを招集時に持参し、係員から別ビブスを受け取ること。

(ウ) トラック種目に出場する競技者は、腰ナンバー標識を競技役員から受け取り、左右腰臀部に付けること。ただし、4×100mR の第1・第2・第3走者及び4×400mR の第1走者は使用しない。また、4×400mR の第2・第3走者は左腰臀部に付けること。

(エ) 混成競技の最終種目では、それまでの総合順位の上位者から順に別ビブスを付け、左右腰臀部にはレーン番号の腰ナンバー標識を付けて競技する。

ク 競技用靴について

(ア) スパイクは全天候舗装用で 11 本以内とし、長さは 9 mm 以下とする。走高跳とやり投の場合は 12 mm 以下とする。

(イ) 靴底の最大の厚さは下表のとおりとする。

種目	靴底の最大の厚さ	備考
トラック種目 (800m 未満)	20 mm	ハードル種目を含む。 リレーにおいては各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (800m 以上)	25 mm	障害物競走を含む。競歩を除く。 リレーにおいては各走者が走る距離に応じて適用する。
フィールド種目 (三段跳を除く)	20 mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25 mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
競歩	40 mm	

《参考》WA が承認した競技用靴リスト

<https://www.worldathletics.org/about-iaaf/documents/technical-information>

(ウ) 審判長が疑義をいただいた場合、競技開始前、競技中または競技終了後に競技用靴の検査を行う場合がある。

(エ) 大会記録以上の記録が出た場合、競技終了後に検査を行う場合がある。

(オ) 競技用靴に関する規程に違反して競技を行った場合は失格とする。

ケ 競技実施場所の入退場は競技役員の指示に従うこと。また、トラック種目を終えてスタート地点に戻る場合は、競技場外または芝スタンド下ダッグアウトを通ること。

4 競技の抽選ならびに番組編成について

(1) トラック競技の予選のレーン順及びフィールド競技の試技順は、プログラム記載の順序による。

(2) トラック競技の準決勝・決勝の組合せ及びレーン順の決定は主催者で行う。なお、男子 5000m 及び女子 3000m についてはグループスタートで実施する。

5 競技について

(1) トラック種目について

ア 短距離種目では、安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自己レーン(曲線路)に沿って進むこと。

イ 不正スタートについて、混成競技を除き、一度の不正スタートでその責任を有する競技者は失格とする。混成競技においては各レースで1回目の不正スタートは失格にならないが、その後不正スタートをした競技者は全て失格とする。

ウ 4×100mR の第2・第3・第4走者は、主催者が用意するマーカーを1か所使用することができる。マーカーは競技者係が招集所で渡し、そのマーカー以外使用してはならない。

エ 女子 3000m について、競技実施当日の気象条件(気温、湿度)等を考慮し、安全と健康管理上の判断で給水を行う場合がある。なお、この給水に使用する水、コップは主催者が用意する。

(2) フィールド種目について

ア 跳躍及びやり投の競技者は、助走路の外側(走高跳は助走路内)にマーカーを2個まで置くことができる。サークルで行う投てき競技の競技者は、マーカーを1個だけ置くことができる。このマーカーはサークル直後あるいはサークルに接して置くこと。マーカーは主催者が用意し、そのマーカー以外は使用してはならない。

イ 高さの跳躍のバーの上げ方は下表のとおりとする(天候等により変更する場合がある)

種目	練習	1	2	3	4	5	以後1人になるまで
男子走高跳	1m75	1m80	1m85	1m88	1m91	1m94	3cm ずつ
女子走高跳	1m40	1m45	1m50	1m53	1m56	1m59	3cm ずつ
男子棒高跳	3m50	3m60	3m80	4m00	4m10	4m20	10cm ずつ
	4m20						
	4m60						
女子棒高跳	2m20	2m20	2m30	2m40	2m50	2m60	以後 10cm ずつ 3m00 から 5cm ずつ
	2m70						
	3m20						

* 同成績によりジャンプオフ及び全国大会出場資格者決定戦が必要になった場合、そのバーの上げ下げの幅は走高跳で 2 cm、棒高跳で 5 cm とする。

* 混成競技の走高跳は 2 ピットを使用する。最初の高さについては、事前に記入した競技開始調査用紙を混成競技審判員に提出し、協議の上決定する。その後のバーの上げ方は 3 cm ずつとする。

ウ 走幅跳は 2 ピットで実施する。(混成競技を除く)

エ 三段跳の踏切板は、砂場から男子は 1 2 m、女子は 9 m の地点にそれぞれ設置する。

オ 投てき種目においては、競技役員の指示に従い、独断で練習しないこと。

カ 走高跳及び男子棒高跳において 6 位までの入賞者が 6 名を超える場合は全国大会出場資格者 6 名を決定するために、また女子棒高跳において 4 位までの入賞者が 4 名を超える場合は全国大会出場者資格者 4 名を決定するために、それぞれ全国大会出場者決定戦を行う。

- (3) 同時申し込みについて、WR k 種目には競技規則 (TR) 4.3 を適用する。(《抜粋》試技を行うべき順序の際に競技者が不在の場合は、その試技時間が過ぎればパス扱いとする。)

6 競技用具について

競技用具は競技場備え付けのものを使用する。ただし、棒高跳のポールは個人所有のものを使用できる。また、投てき用具については当日検査のうえ個人所有のものを使用できる。投てき用具の検査は、競技開始 1 時間 5 0 分前から 1 時間 3 0 分前までの間に本競技場南倉庫 (フィニッシュ側) 内で行う。なお、その投てき用具は検査後から競技終了までは主催者側で預かる。

7 表彰について

- (1) 各種目上位 3 位までに入賞した競技者は表彰式を行う。結果の正式発表後ただちに (5 分以内。本人が他種目に出場の場合は代理人が) メイン競技場ロビーの表彰控室に集合すること。表彰時の服装はチームジャージ、チーム T シャツを原則とする。(競技者保護の観点から競技用服装は推奨しない)
- (2) 4 位～8 位の入賞者は表彰控室にて賞状を受領すること。

8 その他

- (1) 大会運営に支障・問題等が生じた場合は、五県委員で協議し解決にあたる。抗議は、その種目の結果の正式発表後 30 分以内に (同一日に次のラウンドが行われる競技では 15 分以内に)、各県監督または当該競技者の監督が大会本部を通じて審判長に対して口頭で申し出ること。審判長裁定を不服とする場合は、預託金 10,000 円を添え、大会本部を通じて Jury に上訴できる。
- (2) メインスタンドでの集団応援は、大会運営に支障をきたす場合があるため禁止する。その他の場所においても、フィールド種目の進行の妨げとなるような応援はしないこと。
- (3) 動画・写真の撮影については、メイン・サイド・バック各スタンドを問わず、その中段通路よりも上側で行うこと (ただし、試技に係るコーチ席及び表彰に係る指定された区域を除く)。それ以外においても、競技者保護の観点から厳しく対応する場合がある。(撮影した画像の確認、警察への通報等)
- (4) 日傘を使用しながらの観覧・応援等については、メイン・サイド・バック各スタンドを問わず、その中段通路よりも上側で行うこと。(後方観覧者等の妨げになるため)
- (5) 本競技場での部旗、横断幕、のぼりの設置については、メインスタンド最上部のみ許可する。
- (6) シートや荷物等を使つての観客席の場所取りは禁止する。メインスタンド裏コンコースはシートのみ場所取りは認める (テントは禁止)。節度を守り、通行等の妨げにならないようにすること。
- (7) 医務員は本競技場メインスタンド下の医務室 (フィニッシュ側) で待機している。大会出場中の急病・事故については応急処置を行うが、それ以外の責任は負わない。
- (8) 当日の記録・番組編成は本競技場正面玄関付近の掲示板に掲示する。(鳥取陸協 HP においても速報する。《URL》<http://www.hal.ne.jp/trk/sokuho/nans21v/shtml/TimeTable.html>)
- (9) 記録の証明を希望する競技者は、大会本部受付に 500 円を添えて申し込むこと。
- (10) 貴重品の管理は各校・各自で行うこと。紛失の責任は負わない。
- (11) ゴミは各校・各自で持ち帰ること。